[旧平沢寺跡（比企郡嵐山町）]見学レポート その1

一武蔵武士一研究の現状と課題

今回のお話は、次回からの「武蔵武士」に対するさまざまな切り口の講義に先立っての総論という位置づけでした。

このお話で貴重だった点は「武士の定義、成立の過程に対して新たに認識」した点です。それは1980年以前には学校の教科書でも

「武士とは地方の有力者であった開発領主が領内の民衆を支配し、また周辺の豪族との対立を解決するために、武装集団となった」と

教えていましたが、そうではなく、今日の教科書で教えているように「武士とは、もともとは朝廷に武芸をもって仕えていた武官のこと」であって

「各地の紛争を鎮圧するために政府から派遣された中・下級貴族のなかで、そのまま在庁官人などになって現地に残り、土着して武装集団と

なっていった」職能集団のことと捉える必要があるということです。

地方で勢力を伸ばしてくる清和源氏や桓武平氏についてもそう捉えると合点のいくところであります。

そこで武蔵武士の第一人者である畠山重忠ですが彼ももとをただすと桓武天皇の子孫で秩父氏として「牧」を経営して富を蓄え勢力を拡大して

いった流れの一族であります。

以下の参考ホームページはこの秩父氏のゆかりの寺院「旧平沢寺跡」と白山神社についてです。

http://ckk12850.exblog.jp/7214781/

http://www.55bbq.com/ch-04/heitakuji.pdf#search='旧平沢寺跡'

現在の平沢寺

天台宗 平澤寺

本堂

白山神社鳥居

白山神社
平澤地区地籍図

寺院のようであるが千木と鰹木がのっている

熊谷
梅川

都一銅
知あ兵

鬼ものっている

不動堂入り口

たいした建物ではない

礎石がころがっている

埼玉県選定重要遺跡

旧平澤寺跡

成覚山実相院平澤寺は、都幾川村の慈光寺と並ぶ天台宗の古刹である。

かつてはここ赤井（閼伽井）の谷津を中心に壮大な寺域を誇る寺院だったと伝え、寺の縁起によれば、七堂の伽藍と数多の僧坊が立ち並んでいたと記されている。

鎌倉幕府の公式記録である『吾妻鏡』文治四年（一一八八）七月の条には「十三日丁未。武蔵國平澤寺院主職事。被付僧永寛訖。」の記載があり、地方寺院としては破格の扱いを受けていたことが知られる。

現在、往時の堂や僧坊の跡は宅地や畑となって草に埋もれているが、随所に径一メートルもの大きさを測る礎石が地表に露出しており、当時の建物の荘厳さを偲ばせている。

ここに並べた大石は道路工事の際に出土した礎石である。

埼玉県指定旧跡

太田資康詩歌会跡

太田源六郎資康は太田道灌の子である。道灌は、江戸城築城等で知られる知将であったが、扇谷、山内両上杉の争乱の犠牲となり暗殺されてしまう。

資康は、父の仇敵上杉定正を撃つべく、この地平澤に布陣したという。

その時、道灌の友であった詩歌の大家で元京都相国寺の僧、漆桶萬里集九は、はるばるこの地を訪れた。時に長享二年（一四八八）八月十七日であった。

萬里が陣中に三六日滞在したとき、資康は、萬里のために送別の詩歌会を敵と対峙しながらここ白山神社で催した。

その詩歌会で、萬里は「社頭月」と題し作詩したことが『梅花無尽蔵』という書に次のように残っている。

「一戦乗勝勢尚加　白山古廟沢南涯
皆知次第有神助　九月如春月自花」

[銘文]
奉施入如法経御筒一口
右志者為自他法界平等利益也
久安四年 歳次 戊辰 二月廿九日 戊午
藤原守道
平朝臣
実物大
鋳銅経筒
伝旧平沢寺跡長者塚出土

埼玉県指定有形文化財

鋳銅経筒

この経筒は、江戸時代に白山神社裏手にある長者塚と呼ばれる経塚より出土したものと伝えられる。

現在は蓋を失い筒身のみが残る。筒身は簡素な無節円筒形で、やや厚手の重厚な形姿をもつ。高さは二四センチ、外径一二、二センチを測り、艶のある黒褐色を呈する。

表面に刻された銘文から沙門實興を勧進として平朝臣茲縄とその縁者が施主となって、久安四年（一一四八）二月二九日に埋納されたものである。また、製作者は藤原守道ほかの人々であったこともわかる。

下里
中爪
志賀
市野川
武蔵嵐山病院
嵐山志賀局
東武東上線
遠ノ平山
200
254
カインズモール嵐山
志賀小
西荒井
明星食品
武蔵貨物自動車
平澤
むさし台
滑川総合高
中丸
武蔵嵐山
トヨタカローラ
六軒
関根
嵐山局
上水道配水場
嵐山町
大妻嵐山高
遠山
千手堂
北根
樂沢
小川町農村センター
173
国立女性教育会館
嵐山バイパス
島野精機
菅谷
平成楼
月川荘
都幾川

北山事業所
インキ製造
平沢
オートアールズ
白山神社
平澤寺
平澤
ガスト
モスバーガー
嵐山変電所
254
ヤオコー
平澤